

精華町地域公共交通会議 議事要旨

■日時・場所

- 令和元年 11 月 25 日（月）午前 10 時 05 分～11 時 10 分まで
- 精華町役場 6 階 審議会室

■内 容

1. 開 会

- 委員紹介

2. 精華くるりんバスの利用状況及び総括と検証並びにアンケートについて

- 事務局から資料①～④について一括して説明。

（資料① 精華くるりんバスの利用状況）

- ・利用者数は平成 27 年度の 76,730 人から平成 30 年度は 74,249 人と微減傾向
- ・ルート別に見ると、北ルートは平成 28 年度から「狛田・下狛駅東」バス停の新設もあり微増傾向のほぼ横ばい、南ルートは学研都市病院への試験運行による利用者離れもあり微減傾向。
- ・運行費用は年々増加しており、運行費用から運送収入と広告収入を差し引いた委託費（町の負担額）は年々増加している。

（資料② 精華くるりんバスの総括と検証について）

- ・精華くるりんバスは実証実験として平成 17 年から 14 年間運行していることもあり、本格運行に向けてこれまでの総括と検証を行う必要がある。
- ・本格運行と言っても、抜本的な見直しを前提に進めるのではなく、総括と検証を行った上で、今の形が良いのか、抜本的あるいは部分的に変えた方が良いのか、その判断をしたいと考えている。
- ・具体的な内容は、アンケートの実施（住民、精華くるりんバス利用者、公共施設利用者）と関係者ヒアリング（住民、運行事業者、公共施設利用者）を踏まえた総括と検証を予定している。
- ・総括と検証にあたっては、①運行ルート・ダイヤ・運行形態の検証、②デマンド交通等の定時定路線型以外の公共交通の導入の検証、③隣接市町村を含めた広域交通についての検討を軸に進めたいと考えている。
- ・スケジュールについては、令和元年度は住民アンケートの実施、令和 2 年度はバス利用者アンケートや関係者ヒアリングを行った上での総括と検証、令和 3 年度は総括と検証を踏まえた本格運行に向けた準備期間、令和 4 年度から本格運行開始で考えている。

(資料③、④ 精華くるりんバスに関するアンケートについて)

- ・今回実施するアンケートは住民向けで、精華くるりんバスに焦点をあて、くるりんバスをA. 知っていてある程度利用している、B. 知っているがほとんどあるいは全く利用しない、C. 知らないの3つのグループを想定し設問を考えた。
- ・総括と検証の中の第一歩目のアンケートとして考えていただければと思う。
- ・スケジュールとしては、12月6日発送で〆切を1年半ばで考えており、結果報告についてはメール等で取り急ぎさせていただこうと考えている。

○質疑応答

精華くるりんバスの状況について

(若林会長)

- ・南ルートの利用者が減少している要因及びバスの利用者層は？
→南ルートについては学研都市病院への試験運行をした際に利用者が離れ、試験運行廃止後も利用者が戻っていないと分析しているが、減少というよりは以前の水準に戻っている状態。利用者層は高齢者が多い。(事務局)

(林委員)

- ・利用者離れとあるが、主に減少したのは通勤客の利用という感覚を抱いている。
- ・一概に住民のせいではないと思うので、減少原因をもう少し分析するべき。

(若林会長)

- ・路線バスの利用者層はいかがか？
→くるりんバスを利用している層と大差はなく、どちらかというところくるりんバスの方が女性が多いという印象で、後は安さか早さのどちらを選ぶのかという利用者の選択になる。(木村委員代理)

(中尾委員)

- ・平成27年度から2,000人減少しているが、一日あたりだと5人ほどで、減少した要因らしい要因は分からないのではと思う。
- ・今回のアンケートで路線図と時刻表も併せて送付することとしているように、モビリティマネジメントなどを地道にやるだけでも利用者数は徐々に改善の方向に向かうと考えている。

(福田委員)

- ・北と南で利用者層や使い方が異なっており、使い方に着目した運行形態の検討が必要で、そのためにはもう少し細かい利用者分析が必要。

精華くるりんバスの総括と検証及びアンケートについて

(若林会長)

- ・バスの利用者というのは健康な高齢者がターゲットであり、車いす利用の方などに対しては福祉タクシーの検討が必要。
- ・アンケートの中で、ICカードに関する項目も設けているが、IC対応にするための車両改修の費用や、IC利用率はどれくらいか。IC化できれば、料金設定も容易になる。
 - 整備費は精査が必要であるが、改修自体はそこまで大掛かりなものではない。弊社全体のIC利用率は約7割程度。(木村委員代理)

(福田委員)

- ・今回のアンケートは住民が対象だが、バス利用者など住民でない人へのアンケートも重要。結果を分析した上で、収入を上げるのか、利用者を増やすのか、その方向性は決めた方が良い。

(春奈委員)

- ・利用者数を見ると、一便あたり約25人乗っており、定員を考えるとよく利用されているように思う。また、アンケートの対象について、駅から乗る人もターゲットにいった設問が必要ではと感じた。
 - くるりんバスは元々福祉バスからのスタートであり、外から来る人などはターゲットとしていないが、駅から乗る人については、来年度の利用者アンケートの中で利用分析をすることとしている。(事務局)

(若林会長)

- ・今よりも大きいバスにすると費用面等はどうなるか。
 - 今のバスも老朽化しており、遅かれ早かれバスの代替は必要で、代替を見据えた議論を今後していきたい。費用はそんなに変わらないが、燃費等は悪くなる。大きくすると当然曲がれなくなる箇所も発生し、逆に今よりも小さいものにすると弊社の車両ではバリアフリー未対応のものとなる。(木村委員代理)

(神山委員代理)

- ・くるりんバスの利用者数については、他の地域と比べると「良く乗られている」という印象で、一定の利用がある状態から大きく何かを変えるのであれば、その一方でリスクも一定存在するという事。
- ・費用面で見ても、町外から来た通勤客や交通弱者を全て含めて一人当たり500円ほどで運んでいるのであれば、他の地域と比べて高くはない。
- ・アンケートでニーズ把握した上での総括と検証ということで、高齢者にお出かけたいただくためのバスというのを念頭に置いた上で本格運行に向けて検討いただければと思う。
- ・また、今回の話とは別に、バス業界では運転手不足がいよいよ現実的な問題となっており、運転手の平均年齢が50歳となった今、新たな担い手が入って来ないと、10年後には本当に運転手が足りなくなる。
- ・今の路線をいつまで維持できるのかという視点からも、奈良交通にしっかりとヒアリングを行っていただきたい。

(奈良交通)

- ・運転手不足について、奈良の観光需要等で現在弊社でも常時60人ほど足りていない現状で、運転手の残業や休日返上で回っている現状である。
- ・この状態を続けることは困難で、精華町内の路線では実施しないが、運転手不足による減便を黒字路線であっても考えなければならない状態である。
- ・広域連携の話があったが、木津川台住民の輸送やきのつバスとくるりんバスの連携など、運転手を有効に使える方法も考えていければと思う。

(若林会長)

- ・アンケートについて、この内容で進めることで良いか。
→一同異議なし。

3. 閉 会